

## 地域ごとのまちづくり計画対話シート

作成日：令和5年（2023年）11月21日

作成者：（課名）市民協働推進課

（氏名） 杣 晴薫

## 1 基本情報

項目	入力欄
まちづくり協議会名	宝塚市末成小学校地域まちづくり協議会
地域ごとのまちづくり計画	【基本目標】 I 安全で快適なまちづくり  【具体的な取り組み】 1 交通事故防止と安全対策の充実 (4) 生活道路や歩道の整備を図る ③ 県道西宮宝塚線の歩道を整備する  4 生活の利便性の追求と環境改善 (4) 南北の交通網を整備する ① 亀井町、伊子志を南北に通過する 武庫川通線（都市計画道路）の整備を急ぎ、 交通を円滑にする
取組内容の関係課	阪神北県民局 宝塚土木事務所 道路第2課 都市安全部 建設室 道路政策課

## 2 対話の状況

(1) 実施概要
ア 日時： 令和5年（2023年）11月2日 10：30～11：50
イ 場所： 宝塚市役所 第2庁舎 会議室A
ウ 出席者： 以下のとおり ＜まちづくり協議会＞ 宝塚市末成小学校地域まちづくり協議会 ●  ＜関係課＞ 松田課長補佐、吉村職員（宝塚土木事務所道路第2課） 早瀬道路政策課長、安井係長（道路政策課）  ＜協働の取組推進担当次長＞ 戸井室長

## (2) 確認できたこと

### ア 県道西宮宝塚線について

#### (ア) 歩道環境の現状と課題

御所の前町や高松町は歩道が狭く、自転車の通行もあり危険である。御所の前町1番地から御所前公園までの県道東側の歩道は特に狭い。地元は、過去に県に対し「県道東側の歩道は住宅に面しているためセットバックは困難であるが、反対側の歩道は広いいため、車道のセンターラインをずらすことで対応できるのではないか」と提案し、県道東側の歩道整備を要望している。県住の建て直しの際の説明会でも、県の担当者にこのことを話し、今後対応できるように県住の敷地内の整備が行なわれている。

#### (イ) 歩道整備の状況

県は社会基盤整備プログラムを作成しており、令和10年までの整備計画はある程度決まっている。現在宝塚市域では、市役所前交差点から末広小学校に向けた北方面の整備を行っている。要望箇所は整備計画に入っていないため、近年での対応は難しい。令和10年以降の計画に入れるか検討はできるが、道路の両側に歩道があるのは恵まれている方なので、優先順位は低い見込み。

#### (ウ) 今後について

まちづくり協議会として以前から繰り返し要望しているにも関わらず、申し送り等がきちんとなされていないように感じる。今一度、過去に県が要望を受けた記録や県住建て替えの際の経緯等を確認・整理したうえで、説明及び報告を求める。

### イ 都市計画道路武庫川通線について

#### (ア) 現状と課題

高松町はほぼ開通しているが、亀井町や高司、伊子志部分が進んでいない。今後の計画と、実現可能性について確認したい。

#### (イ) 進捗状況

市は都市計画整備プログラムを作成し、令和10年までの整備順を定め順番に整備を進めている。現在は、荒地西山線と競馬場高丸線等を整備している。まだ整備されていない道路があることは承知しているが、財政難やマンパワーの問題もあり、プログラムに位置づけない路線の着手は厳しい状況であり、武庫川通線は優先整備路線に入っていないため、現時点での整備予定はない。

#### (ウ) 今後について

時代の状況によって、都市計画道路の見直しを検討することはあるが、武庫川通線については現時点で廃止の考えはない。亀井町地域の工場跡地やNTT寮の跡地を道路用地として確保することは、費用や必要性を考慮し、都市計画道路事業に着手してからの対応となる。

## 地域ごとのまちづくり計画対話シート

作成日：令和5年（2023年）11月21日

作成者：（課名）市民協働推進課

（氏名） 杣 晴薫

## 1 基本情報

項目	入力欄
まちづくり協議会名	宝塚市末成小学校地域まちづくり協議会
地域ごとのまちづくり計画	【基本目標】 I 安全で快適なまちづくり
	【具体的な取り組み】 3 防災防犯対策の充実 （11）監視体制、緊急対応体制の確立を図る ①住民、行政、企業の連携により、監視体制、緊急対応体制を確立する
取組内容の関係課	環境部 環境室 環境政策課

## 2 対話の状況

<p>(1) 実施概要</p> <p>ア 日時： 令和5年（2023年）11月1日 11：15～11：50</p> <p>イ 場所： 宝塚市役所2-3会議室</p> <p>ウ 出席者： 以下のとおり</p> <p style="padding-left: 2em;">＜まちづくり協議会＞ 宝塚市末成小学校地域まちづくり協議会 ●</p> <p style="padding-left: 2em;">＜関係課＞ 玉置係長（環境政策課）、坂口職員（環境政策課）</p> <p style="padding-left: 2em;">＜協働の取組推進担当次長＞ 戸井室長</p>
<p>(2) 確認できたこと</p> <p>ア 環境問題への対応の現状 公害事案の知覚については、市民からの通報の他、河川管理者や事業者からの報告もある。例えば水質汚濁に関する窓口は下水道課や環境政策課、市の代表電話などに連絡が入り、関係部署で情報の共有を行っている。窓口が複数あることで、市民がどこに連絡すれば良いか不明瞭であることは課題。通報後の対応としては、現場での原因究明や拡大防止をしつつ、原因に対して指導を行う。原因不明の場合は、キットによる簡易検査や、専門業者への精密検査依頼も行っている。</p> <p>イ 地域への情報共有の現状と課題 農業用水や水利関係があれば地域と連絡をとる場合が多いが、それ以外の場合、情報が確定するまで共有は躊躇われるケースが多い。不確定な情報を地域に流さないためではあるが、市民の安心のためにも連絡体制を確立させ、地域へも情報を迅速に知らせることが課題である。</p> <p>ウ 課題解決に向けて 原因の判定に時間を要する場合は中間報告をしたり、何が起きて、今後の処理をどうするかなどの情報を地域と共有することは必要である。今回の事案では、地域に馴染みのある場所での異常であったため、不安を抱える住民もいた。今後、御所川で水質事故が発生した場合は必ず情報を共有する方向で検討する。</p> <p>エ 今後について 緊急時の情報共有については、環境政策課に限らず市全体の問題として受け止めてほしい。本件の対話については終了とし、市全体の危機管理に関して新たな推進シートの提出を検討する。</p>

## 地域ごとのまちづくり計画対話シート

作成日：令和5年（2023年）11月21日

作成者：（課名）市民協働推進課

（氏名） 杣 晴薫

## 1 基本情報

項目	入力欄
まちづくり協議会名	宝塚市末成小学校地域まちづくり協議会
地域ごとのまちづくり計画	【基本目標】 I 安全で快適なまちづくり
	【具体的な取り組み】 4 生活の利便性の追求と環境改善 (1) 高齢者や障害者等の移動が困難な人のための交通機関の充実を検討する ① 困難な人の交通手段について行政等の関係機関と協議する
取組内容の関係課	都市安全部 建設室 道路政策課 健康福祉部 安心ネットワーク推進室 高齢福祉課 健康福祉部 安心ネットワーク推進室 地域福祉課

## 2 対話の状況

<p>(1) 実施概要</p> <p>ア 日時： 令和5年（2023年）11月1日 10：00～11：10</p> <p>イ 場所： 宝塚市役所2-3会議室</p> <p>ウ 出席者： 以下のとおり</p> <p>＜まちづくり協議会＞ 宝塚市末成小学校地域まちづくり協議会 ●</p> <p>＜関係課＞ 村瀬公共交通担当課長、宮田係長（道路政策課）、中川職員（道路政策課） 前田安心ネットワーク推進室長、田辺高齢福祉課長、守川地域福祉課長</p> <p>＜協働の取組推進担当次長＞ 戸井室長</p>
<p>(2) 確認できたこと</p> <p>ア 現在の状況・課題点 自らの移動手段がなくなり、通院や買い物など移動が困難な高齢者が増える。特に市立病院への通院が一番の課題である。しかし、人口減少や利用者の減少、運転手不足により、公共交通機関のバスの増便や路線維持拡充は困難な状況にある。ライドシェアが検討されているが、法整備がまだ追いついておらず、運用には至っていない。</p> <p>イ 解決に向けた他地域の対策 通常のタクシーに乗れない要介護者や障害者を対象に、NPO法人がタクシー料金の半額程度で会員を輸送する「福祉有償運送」という制度があるが、乗車できる対象者や諸条件の基準がある。西谷まちづくり協議会は自ら、青葉台自治会は市内のNPO法人生活支援の会あいかつの協力を得て、地域住民がドライバーとなり、移動困難な住民のためにボランティア送迎を行っている。利用者はガソリン代や駐車場代等の実費を負担している。</p> <p>ウ 解決策の検討 青葉台自治会や西谷まちづくり協議会の対策に加え、元タクシー運転手や、シルバー人材センターの登録者へ「有償ボランティア」として運転業務を依頼する仕組みづくりのアイデアが出たが、道路運送法の観点から実現は難しい。今後、サウンディング調査を実施し、事業者との話し合いの中で市として支援方法を検討する。</p> <p>エ 今後について 市立病院への移動手段が大幅に減った山本地区と直行便が廃止された安倉地区において、11月下旬より市立病院への移動手段に係るサウンディング調査を行い、早ければ来年度に実証実験を行いたいと考えている。</p>

## 地域ごとのまちづくり計画対話シート

作成日：令和5年（2023年）11月28日

作成者：（課名）市民協働推進課

（氏名） 杣 晴薫

## 1 基本情報

項目	入力欄
まちづくり協議会名	宝塚市末成小学校地域まちづくり協議会
地域ごとのまちづくり計画	【基本目標】 I 安全で快適なまちづくり
	【具体的な取り組み】 4 生活の利便性の追求と環境改善 (6) 武庫川河川敷公園の整備を図る ①ドッグランを新設するなど、 ペットと人との共生を図る
取組内容の関係課	都市安全部 生活安全室 公園河川課

## 2 対話の状況

<p>(1) 実施概要</p>
<p>ア 日時： 令和5年（2023年）11月7日 11：20～11：50</p> <p>イ 場所： 宝塚市役所 第2庁舎 会議室A</p> <p>ウ 出席者： 以下のとおり</p> <p>    &lt;まちづくり協議会&gt;     宝塚市末成小学校地域まちづくり協議会     ●</p> <p>    &lt;関係課&gt;     雑賀公園河川課長、石田職員（公園河川課）</p> <p>    &lt;協働の取組推進担当次長&gt;     戸井室長</p>
<p>(2) 確認できたこと</p>
<p>ア ドッグラン設置の要望に至る経緯 武庫川河川敷公園で犬の散歩をする人も多いが、糞尿の始末について地域で意見が出た。犬の活動エリアを区切ることで、問題に対処できるのではと考える。</p> <p>イ ドッグラン設置についての検討 県の管理である武庫川河川敷を市が公園として占有しているため、県の許可が必要となる。固定式の構造物を建てるのはハードルが高く、仮設的な物となると、誰が管理をするのかなど課題が多い。犬の散歩に関する苦情や犬同士のトラブルも多少はあるが、糞尿の始末の問題も含め、ドッグランを作れば解決するのかという疑問もある。</p> <p>ウ 今後について ドッグランの必要性については、地域で再度検討する。市にはこれからも、武庫川河川敷全体として、利用者へのルール啓発やマナー啓発に取り組んでほしい。</p>



## 地域ごとのまちづくり計画対話シート

作成日：令和5年（2023年）11月29日

作成者：（課名）市民協働推進課

（氏名） 杣 晴薫

## 1 基本情報

項目	入力欄
まちづくり協議会名	宝塚市末成小学校地域まちづくり協議会
地域ごとのまちづくり計画	【基本目標】 Ⅱ 街並み・景観の美しいまちづくり  【具体的な取り組み】 2 環境の整備と維持保全 (3) ゴミステーションの改善を図る ① 鳥公害と美観の観点から、 機能性と美観を兼ね備えた容器、 設置場所等を総合的に検討する
取組内容の関係課	環境部 クリーンセンター 業務課

## 2 対話の状況

(1) 実施概要
ア 日時： 令和5年（2023年）11月9日 10:00~11:10
イ 場所： 宝塚市役所2-4会議室
ウ 出席者： 以下のとおり ＜まちづくり協議会＞ 宝塚市末成小学校地域まちづくり協議会 ●  ＜関係課＞ 二宮業務課長  ＜協働の取組推進担当次長＞ 戸井室長

## (2) 確認できたこと

### ア ごみステーションに関する現状と課題

宝塚市は個別収集方式ではなくごみステーション方式を採用。未成小地域では、237箇所のごみステーションがあり、大半が防鳥ネット式である。カラスが嫌がる成分を含む黄色い防鳥ネットを中心としているが、ごみのネット内への入れ方が甘かったり、ネットからはみ出しなどが原因でカラスに荒らされる被害が課題。ホームページで啓発をしたり、折り畳み式ネットボックス購入の補助を始めるなど様々な対策を行っているが、完全な解決には至っていない。ボックスの置き場所の問題や、補助の予算がまだ少ないことなどから、全てボックスに入れ替わるにはまだ時間がかかると思われる。また、その他の課題として、地域におけるごみの出し方のマナー啓発の限界や、片付けの担当、ボックス設置費用やごみステーション管理などの自治会加入有無に関わる課題も挙げられた。

### イ ごみボックスについて

市はボックスの購入に対し、ごみステーション1箇所につき上限1万円の補助金を出している。道路上には何も置いてはいけないという大原則があるため、どこにでも置けるわけではないが、生活上やむを得ないことを理由に、すぐに片付けることを条件に運用されている。しかし、ボックスの片付けをしていない箇所も見受けられ、トラブルが生じない限り黙認されているのが現状である。ボックスの導入が進めばカラスの被害は少なくなると考えられるが、道路管理上の問題と予算の関係で、補助交付件数は現時点で70件に留まっている。

### ウ 今後について

現在、きずな収集という、ご自身でのごみ出しが難しい65歳以上の高齢者又は障害者を対象とした個別収集を行っているが、市内全戸個別収集化については現時点では検討していない。戸別収集は経費がかかり過ぎる点が課題。まち協側からは、御所川付近ではごみが川に落ちてしまったり、車がふんでしまったり、ボックスやネットからはみ出たごみが原因となる衛生面上の課題があるので、引き続きマナー啓発を呼びかけ、ボックス化も進めて欲しいとの要望が挙げられた。

### エ 資源ごみ盗難について

まち協側からは、「地域ではその現場を見た人が実行者に直接注意したり写真を撮りクリーンセンターに通報したりしているが、特に新たな対策が取られていないのが現状。担当者がパトロールを強化しているが、効果がない。資源ごみは、市民の手から離れた段階で市の資産となるので、市が市民からの通報をもとに警察に被害届を出すなどの対策を講じること」を要望。現在、資源ごみの盗難について、市としては警察への通報などは行っていない。今後もおそらく通報などはしないであろうと予測（市側の出席者は所管外のため、知るところで回答）。市としては、条例に罰則規定はないが、管理課に通報をもらえば条例違反としてパトロールや注意を行う。しかし、多数あるごみステーションを全て見回るのは現実的ではないとの見解。本件については、所管外であることから今後の対応についての明確な回答は控えた。

## 地域ごとのまちづくり計画対話シート

作成日：令和5年（2023年）11月28日

作成者：（課名）市民協働推進課

（氏名） 杣 晴薫

## 1 基本情報

項目	入力欄
まちづくり協議会名	宝塚市末成小学校地域まちづくり協議会
地域ごとのまちづくり計画	【基本目標】 Ⅲ 健康で心がふれあうまちづくり  【具体的な取り組み】 6 人材の発掘 (1) ボランティアグループの立ち上げを図る ①家事援助や育児援助（ベビーシッター） のできるボランティアを、市を通じて募り、 立ち上げを図る
取組内容の関係課	子ども未来部 子ども家庭室 子ども家庭支援センター

## 2 対話の状況

(1) 実施概要
ア 日時： 令和5年（2023年）11月7日 10:00~11:15
イ 場所： 宝塚市役所 第2庁舎 会議室A
ウ 出席者： 以下のとおり ＜まちづくり協議会＞ 宝塚市末成小学校地域まちづくり協議会 ●  ＜関係課＞ 谷川所長、北浦係長（子ども家庭支援センター）  ＜協働の取組推進担当次長＞ 戸井室長

## (2) 確認できたこと

### ア 育児援助の現状

支援の現状として、フレミラ宝塚で行っているファミリーサポートセンター事業がある。保健福祉サービス公社に委託している事業であり、小学6年生までを対象として、提供者と依頼者のマッチングを有償で行っている。利用目的は保育所の送迎や母親のリフレッシュなど多岐にわたり、提供者と依頼者の双方の話を聞き、アドバイザーがマッチングを行う。また、産後うつ対策として、産後ママへの支援も行っている。こちらも有償で育児支援や家事支援などを、介護保険事業者やNPOのあいかつとシルバーへ委託している。支援の範囲については、赤ちゃんに直接触れないことや、沐浴補助や授乳の準備といった間接的な支援に留めることに決めている。それぞれ、経済的に難しい家庭には利用料の減額や補助などの制度もある。

### イ 支援の課題

シルバー世代へ子育て支援を頼めたらと考えているが、子育ての仕方が時代と共に変化しているため、今の育児への理解の必要性や、どこまでの支援をどこで実施するのかといった、支援の範囲や場所の検討が課題。

また、ファミリーサポートセンター事業や産後・育児支援ヘルパー派遣事業の申し込みはフレミラ宝塚でなくてはならないため、フレミラ宝塚が地域から遠く、電車を利用しないと行けない。未成小校区に近い、産後ヘルパー事業を提供している光明ヘルパーステーションにて、直接の申込ができないといった手続面での複雑さ・不便さが課題として挙げられる。市役所や地域の拠点施設などでの手続きについては、特別な事情がある場合を除いて実施していないのが現状である。

### ウ 課題の解決策

シルバー世代への今の子育て方法を理解していただくひとつとして、「たから・まご手帳」という子育て紹介ツールを作成しようとしている。これを参考に、zukavoでのボランティア登録やファミサポに会員登録するという流れを作っていくことで、シルバー世代に手を貸してもらい、子育て世代と子育て世代の地域での結びつきに繋げていきたい。

### エ 今後の地域と子育てについて

地域としては、地域での子育てを通じて、子育て世代とシルバー世代に交流が生まれ、つながりができることを大切にしていきたい。地域のママやパパも誰が地域の人かわからないのが現状なので、顔の見える関係の構築のために、いかに交流できる場を作るかを検討したい。PTA活動や、地域の祭り、子どもの遊び相手などのきっかけを作り、地域の中で顔見知りになることが大切。そういった取り組みが、災害時やいざという時に一時預かりができたり、助けてほしいというニーズを掘むことにもつながると考えている。市としては、子育て世代からシルバー世代までをつなぐ横断的な考えを持ち、行政側がニーズを調査し、地域へも情報提供を行っていく。

### まち協からの要望：

- これまでの実績を踏まえ、どのような援助が求められているか、個々の援助に関して提供者にはどのような研修が必要かをまとめた一覧表の作成と提供。
- 援助提供者として、してはいけない声掛けの一覧表の作成と提供

(※まち協からの要望を受け、提供された資料を添付)

育児ファミリーサポートセンター事業（R4年度実績）

（単位：回）

依頼状況区分	割合	件数
保育施設までの送迎	30.8%	1,128
習い事等への子どもの送迎	13.6%	496
保護者の趣味、リフレッシュの際の子どもの預かり	9.9%	363
保育施設の保育開始前や保育終了後の子どもの預かり	9.3%	341
放課後児童クラブ終了後の子どもの預かり	7.3%	267
保護者等の病気、その他急用の場合の子どもの預かり	5.5%	201
保護者の自宅就労、短時間・臨時的就労の場合の子どもの預かり	5.0%	182
その他	4.1%	150
保護者が兄弟・姉妹の習い事等の送迎を行う際の子どもの預かり	3.8%	138
小学校、養護学校等の登校前の子どもの預かり	3.3%	120
放課後児童クラブの開始前の子どもの預かり	2.1%	76
買い物等外出の際の子どもの預かり	1.8%	66
保育所・学校等が休み時の子どもの預かり	1.4%	51
学校の放課後の子どもの預かり	1.4%	50
冠婚葬祭や他の子どもの学校行事の際の子どもの預かり	0.8%	31
保護者の求職活動中の子どもの預かり	0.0%	0
合 計		3,660

※令和4年度に依頼会員（手助けをしてほしい人）が提供会員（手助けをする人）に依頼した内容別に分けており、依頼件数が多い順に並べています。

嬉しかったこと	NGだったこと
もう、こんなことができるようになったんだね。大きくなったね。	ベビーカーで移動中に「こんな所通るんじゃない！」と言われた。
おしゃべりが上手だね。	電車で子どもがなくて、ジロっとみられる。
子どもらしく育っているね。	自分の勝手にイライラしないで！と、その時の状況だけで言われた。
顔見知りでない人からも「かわいいね」と声をかけてもらえた。	「まだ歩けないの」「まだオムツとれないの」「トイレはいつから始めるの、もう遅いんじゃない」など子どもの発達について。
声掛けはないけど、子どもと目が合ったら、にこっと、笑顔で返してくれた。	「母乳を飲ませる」「靴下をはかせなくても大丈夫なの」「靴下をはかせなくても大丈夫なの」「便秘ならお白湯を飲ませたら」など育児の方法について
子どもが電車やバスの中で大泣きしたときに、優しく子供をあやしてくれた。また、「大丈夫だよ」というような優しいまなざしを向けてくれた。	「男の子なのに髪を切らないの」「お母さんに似てないね」「まだおしゃぶりしているの」